

令和6年度 後期 上田市立北小学校 学校自己評価シート 評価=A：できている B：だいたいできている C：あまりできていない D：全くできていない

学校教育目標	総合評価
花とみどりと笑顔の学校	後期は「よく学ぶ」の具体として「自分で考える・自分の考えをかく・考えを出し合う」授業づくりに特に力を入れて取り組んだ。各教室は、自分で考え、友だちといつでも意見交換ができ「何で?」「そうかあ。」の声が自然に湧きあがる学びの姿が見られる。また「北小まつり」「クラブ活動」「職場体験学習」「地域の方と触れ合う総合的な学習の時間」等子どもたちは、多様な他者とかかわるよさを実感する学校生活を送ることができている。今後も、保護者・地域・教職員が一丸となって児童の成長を支える北小学校を目指していきたい。
10年後、20年後に大輪の花を咲かせるための今の創造 ～よくふれあい・よく学び・よく遊ぶ～	

領域	重点	評価項目	評価の観点	成果と課題	評価	改善策・向上策
学校教育	よくふれあい	あいさつの響く学校づくり	「5つのあいさつ」(1日に何度も、相手を見て、会釈して、笑顔で、自分から)をおこなっている。	・自分から進んで挨拶をする子が多い。 ・学年に合った「あいさつ」に取り組んでいる。 ○心から挨拶をしているか、今後の課題に思われる。	B	・二学期にたてわりのグループで「挨拶について」考えたことを、今後もクラスやたてわりのペアなどで「あいさつの大切さ」について考えていく。
		かかわり合う場の確保	北小応援団と連携した活動を積極的に行い、地域のもてる力を有効活用している。	・クラブ活動や読み聞かせの会、職場体験学習、総合的な学習の時間、学校行事等でも地域の方に支えていただき、共に学ぶ姿が見られる。	A	・引き続き、応援団の方や、地域の方と一緒にできる活動を考えていく。また学習後、つながるよさを児童が実感できる振り返りの時間をしっかり設定していく。
	よく学び	学年の枠を超えて友だちと交流する場の保証	学年内やペア学級さらには全校で友だちとふれあう活動・子どもたちのアイデアを生かした児童会活動を通して、互いに高め合う活動を行っている。	・他学年や他クラスなど、クラスの枠を超えて活動を行うことができた。(生活科や総合的な活動などで)	+ B	・教科の学習などで、伝える活動場面等で、積極的にペア学級や学年内等の交流に引き続き取り組んでいく。
		子どもたちの「問い」を真ん中にすえた授業の創造	以下の点を大切にした授業を行っている。 ○子どもの問いを真ん中にすえた授業展開 ○これまでの学びを活用・発揮できる学習過程 ○多様な他者とかかわりあうことができる学習環境	・二学期から「自分で考える・考えを書く・考えを出し合う」ということを全職員で意識してきたことで、児童アンケートの「自分で考えている」という項目の結果が向上した。年度当初より、児童および職員・保護者・地域も含めてゴールを共有できるとよい。	B	・全職員が共通認識をもった上で来年度の研究テーマを設定し、授業づくりに取り組んでいく。 ・村瀬先生の授業クリニックは来年度も引き続き行う。来年度も引き続き行う。地域の方も授業を見ていただいたり研究会に参加し一緒に考えた取り組みがよかった。来年度も、地域、他校(三中・西小)とも連携して授業改善に取り組んでいく。
		「ハッピータイム」(外遊びやかかわり遊びの日)の位置づけの継続充実と、遊びの時間の確保	子どもと一緒に外遊びを含むかかわり遊びを楽しんだり、子どもが遊びに進んで取り組めるよう働きかけたりしている。	・ハッピータイムや休み時間には、友だちと関わりながら、楽しく遊んでいる姿が多くみられる。 ・児童や保護者の評価も高く、水曜日に30分遊びの時間を確保していることは、効果的であると感ずる。 ・朝の開錠時間を早めてことで朝のうち以外で遊べる時間を確保したことも効	A	・ハッピータイムの時間に遊び方や友だちとの関わり方で困っている児童がいなくなれば引き続き教師が把握していく必要がある。 ・地域の方と触れあえる機会を増やしコミュニティルームの有効的で持続的な活用法の検討を推進していく。

学校経営	保護者地域との連携	情報の発信	教育方針・取組やその成果・連絡など、必要な情報を定期的に発信している。	果的であった。 ・HPの更新や学年・学級通信の発行を通じて、学校の取り組みや子どもたちの日々の学びの様子を発信することができた。	B	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な情報発信をつづけていく。 イラストや写真等の著作権に関しては、十分に気を付けて使用する。 多くの保護者の方や地域の方に情報を見てもらうため、発信手段についても検討していく。(学校から保護者への通信はデジタル化)
		PTA・ボランティアとの連携	PTAやボランティアとの連携を十分行っている。	<ul style="list-style-type: none"> PTA主催の北小まつりは毎年楽しみにしている児童会が多い。今年も多くの子が参加し、児童・保護者・教職員・地域住民が触れ合う機会となった。 北部まちづくり協議会・新田自治会およびPTAの方に落ち葉掃きを行っていただいた。学校の環境が見違えるほど整った。PTCA作業も同様だった。 学校・保護者・地域がつながり一体となって児童を育てていく北小学校をさらに目指していきたい。 	十 B	<ul style="list-style-type: none"> PTAおよび学校応援団について、組織の見える化や目的を共有する機会をもち、それぞれがつながり、子どもたちの成長を皆で見守る学校づくりを考えていく。 子どもたちが楽しみにしている北小まつり・親子チャレンジはPTAの皆さんと学校が協力しながら来年度以降も開催していく。
		一人一人に応じた支援	全職員で児童を支え、一人一人に応じた支援をおこなっている。	<ul style="list-style-type: none"> 相談室を拡大し、「ほっとルーム」を開設した。そこで少し心を休めたり、様々な職員と関わったりしている。そのことが登校に繋がっている。 いじめの早期発見のために学校生活に関するアンケートを年4回おこなった。アンケートから、個別に相談をおこない児童の安心につながる事案があった。 「全児童を全職員で育てる」生徒指導事案他児童に関する様々なことについて、必ず報連相をおこない複数の職員で対応するようにしている。事案の中には、対応が遅れ事態の解決に時間がかかることがあった。 	十 B	<ul style="list-style-type: none"> 困ったことについて、児童が担任に言えなかったり、担任が気づかなかつたりして、対応が遅れることがある。引き続き、教職員誰にでも相談できる雰囲気や保護者との連携を大切にし、児童一人一人への適切な対応をおこなっていく。